

## 令和2年度（2020年度）第3回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

### III つくば市市民参加推進に関する取組の課題への対応

#### 1. 無作為抽出による委員等候補者名簿の活用について

	意見等	回答、対応等
1	<p>詳しい分野や関心のある分野など、ある程度階層を分けて、審議会等で扱う内容に応じて、その階層から選ぶというような方法が有効なのは。</p>	<p>◆事務局（会議後）</p> <p>委員等候補者には、名簿登録依頼の際に伺っている「希望する分野」に沿って、市民委員への就任等依頼を行っている。</p> <p>できるだけ関心のある分野に参加いただけるように、引き続き希望を伺っていく。</p>
2	<p>裁判員に選ばれると、働いている人は特別休暇を使える。市民委員に選ばれた場合には、おそらく、自分で有給休暇を取得するしかないと思う。職場で市民委員に選ばれた人がいる場合には、上席者がぜひそれは出てくださーいというような働きかけがあってもいいのではないか。</p>	
3	<p>【参考資料4 P45】</p> <p>選択肢に「全ての分野」や「どの分野でもいい」というものがあるといいかもしれない。今までだと三つしか選べないが、全てに関心があるという市民がいる可能性もあるので、三つに限らなくてもいいのでは。</p>	
4	<p>【参考資料4】</p> <p>参考資料4を見ると、硬い印象を受ける。仮に市民委員以外の手法にも参加してもらうという形でアプローチをするのであれば、PRの仕方を変えて、例えば「この2年間市政に積極的に参加してもらいます」というような形でPRしていくと、翻っては市政に参加できている、あるいは参加する権利は少なくとも与えられているという感じを受けるのではないか。市とし</p>	

	ては、色々な意見を聞きたいというアピールの仕方が考えられるかと思う。	
5	無作為抽出で同意された方は、参加に拒否反応があるわけではないと思うので、市民委員になってもらう可能性と同時に、モニターとして、希望する分野について意見を伺うということもあっていいのかと思う。そういう人たちを核にしなから、分科会等の意見集約をしていく拠点としての役割を担っていただけるようなお願いをするという形態もいいのでは。	
6	特定の市民が審議会等の委員を連続して務めたり、複数の審議会等の委員を併任したりすることは、市民参加として望ましい形とは言えないのではないか。その点では無作為抽出という選び方は決して悪くないのではないかと思う。	
7	<b>【6の意見に関連】</b> 市民委員は2つ以上の審議会等に参加できないという条件があったかと思うので、一人の人が複数の審議会で市民の代表になることはないと思う。	
8	委員等候補者名簿に登録されている人から委員を選ぶ際に何か基準はあるのか。どういう形で依頼をする人を選んでいるのか。	◇事務局（会議中回答） 第一希望から第三希望までの希望を見て名簿の上から順にお声がけをしている。年齢や住所等も登録しているが、そこから選ぶと作為的になってしまうため、ランダムに登録されている名簿の上から順に選んでいる。ただし、審議会等によっては、年齢や性別等の要望もあるため、その際は属性を限定して市審議会等の所管部署に候補者情報を提供している。
9	<b>【8の回答に対して】</b> 明記する必要はないと思うが、ジェンダーバランスや年齢層、居住地にあ	

	<p>まり偏りが出ないように配慮するという一文は、どこかにあってもいいと思った。</p>	
10	<p>無作為抽出で選ばれた立場から言わせてもらおうと、いきなりつくば市から市民委員になってもらえないかという連絡がきて驚いたものの引き受けたが、選ばれた身になると唐突感があり、そこが改善されるといい。自分から応募したり、パブリックコメントを出したり、積極的に市政に関わろうと思っている人たちの意見を拾うことはとても大切なことだと思うが、全然関心ないという人が無作為抽出で選ばれるケースがあると思うので、そういう人たちが、せっかくだから参加してみようかと思えるような仕組みがあったらいいのではないか。</p>	
11	<p>【10の意見に関連して】 市民参加にモチベーションを持ってもらう方法として、委員を経験して得たものを過去の市民委員にエッセイにしてもらって、読んでもらうのはどうか。</p>	

## 2. 申込者の年齢層について

	意見等	回答、対応等
1	<p>人が多いところにチラシを設置すればいいということではなく、フェイストゥフェイスの勧誘の仕方が必要になってくるのではないか。例えば、市の職員が区長や民生委員、PTA等に審議会等を紹介するようなことも必要になってくると思う。</p>	
2	<p>宣伝の仕方については、フェイストゥフェイスで働きかけるか、こういう時代だから、LINE等のSNSを使って若い人たちにPRするなど、もう少し</p>	

	<p>研究してもいいのではないか。</p> <p>例えば、TX は人口の 10%にあたる人たちが毎日利用している。こういう人たちの通勤や帰宅の際、声をかけられるのではないか。また、病院の待合室やバス、タクシーなど、知ってもらう方法はあると思う。フェイストウフェイスに加え、そういった方法を有効に活用する。</p> <p>図書館にチラシを置いて、たくさんあって目につかない、パンフレットを置いて、よほど関心がないと手に取る人はいないような気がする。</p>	
3	<p>職場のイントラ掲示板に、つくば市政策イノベーション部情報政策課が開催する「Hack My Tsukuba」というイベントが掲載されていた。それを市のホームページで調べたところ、階層が深く、とても探しづらくなっていた。ホームページのトップページのところから見やすくするとか、周りの企業、大学等に少し協力をしてもらい、周りの企業等のイントラや広報に載せてもらう方法もあるのではないかと思う。</p>	

### 3. 審議会等の応募者数について

	発言者	意見等	回答、対応等
1	飯田委員	<p>「専門的な内容の会議でも市民目線で取り組む」の課題として、「市担当者側にも負担になる」とあるが、負担になるからやらないということではなく、どのように実施するかという方向にもって行ってもらいたいと思う。お互いにどのように歩み寄るかというような形をつくっていければと思う。事例を作っ て展開していくことが必要。</p>	

4. その他（審議会等以外の手法をどのように推進していくか）

	意見等	回答、対応等
1	<p>別のまちづくりの会議に出たときに「選挙は1人1票だが、株主総会は株を持っている人の方が、意見が強い。探し方で1人当たりの意見や力が全然違う」という話があった。確かに研究学園都市地区は人口が多いが、筑波地区等には多くの地権者がいる。つくば市を考えていくときに、それぞれ1人として意見を聞くということでもいいのかと、今まで考えたこともなかった発見だった。住民基本台帳からの無作為抽出は一つの選び方ではあるが、もっと別の選び方も考えてもらえるといいのではないか。</p>	
2	<p>国連のように、地域代表のような形、地域を加味する方法でもいいのではないか。</p>	<p>◆事務局（会議後）</p> <p>参加いただく際に地域等を考慮する方法についても検討していきたい。</p> <p>なお、市では地域代表として市内6地区（大穂、豊里、谷田部、桜、筑波、荃崎）の各区会連合会会長に委員として参加いただいている審議会等もある。その際、各会長はつくば市在住の市民ではあるが、市民委員（公募又は無作為抽出による参加）ではなく、有識者という扱いになる。</p>
3	<p>この無作為抽出だけでは、市が勝手に決めて機械的に依頼するという形だが、区会など、ボトムアップの形で丁寧に意見を拾い上げていく方法も併用されてしかるべきだろうと思う。様々な方向から掛け合わせて、多様な意見を拾い上げていくという方法がいいのではないか。</p>	
4	<p>PR は常陽新聞やつくば市のケーブルテレビで募集することもできるの</p>	

	ではないか。	
5	市民の意見をどう引き出すかという市の側の努力も必要だと思う。支所とかで高齢者などの声を聞くような取り組みをしてもらえるといいと思う。チラシを配るとか SNS での発信などは、ある意味上から見ている感じがする。市からも、市民が意見を言っている、伝えていいと思えるような努力をしてもらいたいと思う。	
6	まちづくりのイベントに市の職員を誘っても来ない。特に若い人は自分の地区や地区でどんな活動をしているか把握しているのかと思っている。行政の人にもほぼ強制的にでも地区に入ってもらおうと、色々な意見があるということが職員もわかるし、職員も市民の1人だという意識も芽生えて、いい形になっていくように思う。	
7	<b>【6の意見に関連】</b> 市の職員が仕事ではなく地区に行ってしまうということになると、負担が膨大になると思う。正直、朝から夜8時9時まで仕事をしていて、さらに休日も自発的に地域の集まりに参加してくださいというと、なかなか難しいだろうと思うので、その辺りは仕事の一環として、例えば、若いうちは仕事として行かせて、地域の現状を十分に把握してもらおうなど、制度的な取り組みでカバーできる部分もあるのではないかなと思う。	
8	<b>【6、7の意見に関連】</b> つくば市はイベント等が多く、職員も駆り出されており、負担になる。そういうことがあって、地元の会にも出られない。加えて、職員自身の教育等の問題が休日に重なるとなると、やはり、仕組みづくりを考えるべきではな	

	いかと思う。	
9	市民からの意見や相談に対して、結果をきちんと返すことで、市が動いてくれたという信頼関係ができていくのではないかと思う。	
10	市側だけに解決策を出していただきというのではなく、分科会のような会議体でも情報を共有できるのではないか。	
11	カナダの公共図書館の事例だが、コミュニティ担当者という職責を設けて、何か実施する時はその人たちが必ずコミュニティに入り、意見を聞いてから企画立案するという州がいくつかある。市も職員数に限りがあるため、専任というわけにはいかないと思うが、要はシステムとして動かしていく。そうすると少なくともハードルが下がるということになるのではないか。	
12	委員等候補者名簿への登録を同意した人、以前パブリックコメントを提出した人、市民委員の経験者等に、希望があればメルマガのような形で、パブリックコメント等の情報を送付することも、参加のきっかけになるのではないか。	
13	<p><b>【参考資料3】</b></p> <p>本来であれば、パブリックコメントは対話で政策への理解を深めてもらうという非常に貴重な機会だと思う。参考資料3を見ると、例えば、自殺対策計画に関する意見への対応が全く回答になっていない。なぜ今できていないのか、どこに課題があるのか、意見が出たタイミングで市の現状を差し障りのない限度において説明してあげるといった貴重な機会を逃しているのではないかという気がする。デリケ</p>	

	<p>ートな問題に関しては答えられない場面も多いと推測するが、可能な範囲で問いに真正面から答えてあげるといような回答の仕方の転換があってもいいと思った。</p>	
--	--	--

5. 資料について

	意見等	回答、対応等
1	<p><b>【参考資料6】</b></p> <p>人口に対する応募者についての表かと思うが、表を見ると、研究学園都市地区は人口も多く、それに対する応募者も多いという感じがする。しかし、研究学園都市地区 33 人ぐらいを割ることの7万人で計算した場合と、荃崎地区等の5人ぐらいに対して2万人を計算してみると、荃崎地区の方が0.5%で多い。計算の仕方で全くデータが異なるので、この参考資料6の見方を教えてほしい。</p>	<p>◇事務局（会議中回答）</p> <p>おっしゃるように、パーセンテージで言うと、荃崎地区、筑波地区、豊里地区の応募者が多くなると思う。表は市民委員に応募している傾向ということで出しており、パーセンテージではなく、実数での表になっている。人口が多い地区は応募者数も多いという事を示している資料のみ。表では人口が多い研究学園都市地区は応募者も多くなっているが、割合で見ると必ずしもそうではない。</p> <p>◇座長</p> <p>参考資料6に人口比のパーセンテージも加えてもらえると、より偏りのないデータとして判断できるという気はする。</p> <p>一方で、人口比で出ていればそれで公平かという、必ずしもそうではないという悩ましい問題がある。地区代表ではないが、つくば市の中で地域をある程度網羅しているということも重要な要素であることは間違いないと思う。</p>
2	<p><b>【資料1 P1】</b></p> <p>つくば市の目指すべき市民参加について、数字はわかりやすいが、例えば、審議会でどのぐらいの意見が出てくればいいのかとか、20万人のうちの2万人近くの意見が出てくるのがあるべき姿なのかという数値的な目標があるの</p>	<p>◇事務局（会議中回答）</p> <p>唯一、市民が参加可能な審議会等では100%市民委員に参加してもらおう。そのとき、委員全体のおおむね3割を市民とするという指標はある。</p> <p>その他、地域やパブリックコメント件数について、特に目標は設けていな</p>



	か。パブリックコメントだったら年何件ぐらいを目指すのかなど。	い。
3	<p><b>【2の意見に追加】</b></p> <p>このぐらいになると市民が市政に参加しているという目に見える数字があってもいいのかと思った。それとも、参加する人がいて、いい意見が出てくればいいという考え方なのか。</p>	
4	<p><b>【2、3の意見に関連】</b></p> <p>数値だと、賛成か反対のどちらかに評価が分かれてしまうかと思う。意見は数値目標の中には入らないため、個人的には避けてほしい。</p>	

#### 6. スーパーシティについて

	意見等	回答、対応等
1	<p><b>【今後の協議について】</b></p> <p>今まで市民参加について話してきたが、市民参加は一応終わりになるのか。それとも、市民参加に付随してスーパーシティも協議していくことになるのか。今は1時間半で市民参加について協議しているが、案件が増えると時間も伸びるのかとは思っていたのだが。</p>	<p>◇事務局（会議中回答）</p> <p>基本的には2時間を超えない範囲でやりたいと思っている。</p> <p>市民参加については並行して一つの回の中で提言について議論して、スーパーシティについても話をさせていただく。同時並行で動くということになると思う。</p> <p>一方で、スーパーシティ構想で市が考えていることの中には、こうした最先端技術を使って、どうしたら市民参加を促せるかということも入れようと考えている。必ずしも分かれたような話ではない。</p> <p>また、当初、会議は年度内に5回くらいと御説明していたかと思うが、スーパーシティの案件が入ることによって、1回増えて6回になる。</p>
2	<p>シリコンバレーの成り立ちは、地域企業の巻き込みから始まっている。つくば市は、大学とNTTの研究所は立地しているが、スマートシティで有名な、日立、NEC、富士通、NTTデータなど</p>	

	がない。地域の人に伝えるにも、まずは巻き込める地元の IT 企業がないのではないか。	
--	--	--